

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JA新はこだて

大村 憲光



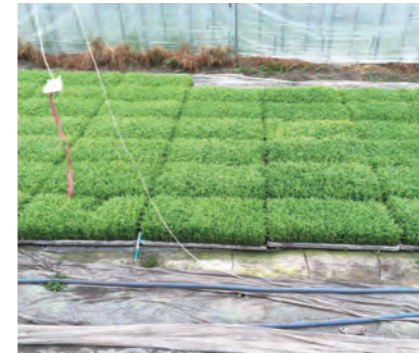
育苗箱への設置(4月28日撮影)



灌水の様子(4月28日撮影)



播種の様子(4月28日撮影)



生育状況の確認(5月15日撮影)



試験区の生育状況(5月29日撮影)



慣行区の生育状況(5月29日撮影)

試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

試験作物 及び品種

水稲(ふっくりんこ)

試験資材 及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット(寒冷地用) 50枚

慣行資材

パールマット粉E

栽培方法

播種日

4月下旬

定植日

5月下旬

収穫日

9月下旬

資材使用期間

4月下旬~5月下旬

試験区面積

1.5反

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

最初の灌水に手間がかかる。

その後の灌水はいつもより少なく済んだが、少しムラができてしまった。

慣行の培土よりもマットの重さは軽くなった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育はほぼ変わらないと感じた。

田植えは問題なくできたが、田植え機に乗せるときにマットが折れてしまうことが時々あった。

苗管理の問題と思うが、根張りが少し悪かったように感じる。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】慣行の培土よりも軽く、水持ちが良い。

【問題点】最初の灌水に手間がかかる。

(4)雑草・病害虫の発生について

ほぼ変わらないと感じた。

モニター感想

概ね問題なく作業することはできたが、灌水作業において、大きなメリットを感じられなかった。

仮に全量こめパワーマットを使うとしても、マットの置き場所の確保が難しい。

労働力不足は課題の一つなので、省力化につながる資材や技術の提案を今後もいただけると嬉しい。

JA担当者の感想(上磯支店 山崎 氏)

生育上は特に問題ないが、育苗段階での水管理等で少しムラが出ていた。

重量軽減や水管理の減少、床土を使わなくても良いというメリットはあるが、育苗水管理をしっかりできる方であれば少し難しいのかなと思う。

将来的には、コスト削減や重作業の軽減には良い資材だと思うが、技術指導も併せて必要であると考えられる。

今後の使用について

現在の作業の流れを考えると自分には合わないの、しばらく使うことはないと思う。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 クリーンシート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他